



ヤシガニ・
ウミガメの島宣言
©regan&komon

**来間島ヤシガニ・ウミガメの島宣言をして、
共生の島づくりを2.0
プロジェクト報告書**

2025年8月25日 次の来間島を創造する実行委員会 代表 大島康生

プロジェクトの背景

来間島では近年、オーバーツーリズムの影響により、ヤシガニやウミガメの生息環境が急速に悪化しました。こうした危機に対し、課題解決の専門組織として「次の来間島を創造する実行委員会（以下、委員会）」を来間部落会会員有志で設置しました。翌2023年度には宮古島市の地域活性化モデル地区支援事業を活用し、ヤシガニ・ウミガメの生態調査、勉強会の開催、情報発信を実施しました。また「ヤシガニ・ウミガメの島宣言」を掲げ、海岸線を中心とした保全の方向性を島内外に周知し、サステナブルな着地型観光の試行を通じて、保全と地域経済の両立可能性を検証しました。

さらに、来間周辺（パチャ沖）の藻場がジュゴンの餌場となっていることが調査から判明し、広域生態系の視点からも保全の必要性が高まっています。委員会は将来的な国定公園化の候補範囲への位置づけを見据えた取組を計画しています。

本プロジェクトでは、これらの活動を継続・発展させ、①生息地のモニタリング、②情報発信、③シンポジウムを通じた教育・普及と合意形成、④持続可能な観光モデルの確立を同時並行で進めるため、外部資金が不可欠です。2024年度においては、おきぎんふるさと振興基金の助成を受け、当該取り組みを「来間島ヤシガニ・ウミガメの島宣言をして、共生の島づくりを2.0」として実施しました。

各取り組みの報告

①勉強会や持続的な活動の検証作業

委員会の持続的な活動を目指すための資金調達方法についての考察。

活動の拠点づくりや、専門家を招いてヤシガニ・ウミガメについての勉強会を実施。

委員会の継続的運営に向け、資金調達手段を再検討いたしました。

当初はクラウドファンディングを計画しておりましたが、①定期的な資金確保が難しいこと、②撮影・原稿作成等の制作負荷が委員の稼働を圧迫することから、賛助会員制度（法人会員）による年会費型の運営モデルへ方針転換いたしました。

その結果、本年度は沖縄リゾートウェディング協会様に賛助会員としてご参画いただき、安定的な活動基盤の一步を築くことができました。今後も、おきぎんふるさと振興基金の趣旨に沿って活用申請を行い、地域保全活動の持続性を高めてまいります。

来間島離島振興総合センターを主たる会場として活用し、住民・事業者・行政・研究者が集い学ぶ「地域ミートアップ」を運営いたしました。運営手順の標準化を進め、勉強会の定期開催に耐える体制整備を図っております。

勉強会の実施と内容整理

(1) 第1回 勉強会「宮古諸島のジュゴン講演会」

- 日時：2024年10月13日（日）18:00
- 会場：来間島離島振興総合センター
- 講師：沖縄県環境科学センター 所長 小澤宏之 氏
- 要旨：
 - 宮古諸島におけるジュゴンの知見を整理いただきました（1965年伊良部諸島での捕獲記録、2019年の伊良部島・佐和田での目撃等）。
 - 2020年以降、ドローンによる海草藻場の面的把握と潜水調査を組み合わせ、佐和田周辺で多数の喰み跡（採餌痕）を確認されたことをご報告いただきました。
 - 海草藻場で採取した糞の分析からジュゴンDNAが検出され、宮古島海域における生息が科学的に裏づけられたことをご説明いただきました。
 - 今後の課題として、生息状況の継続モニタリング、個体群解析、教育普及・情報収集の強化をご提起いただきました。

- 当日の様子：



講師をお願いした沖縄県環境科学センター 所長 小澤宏之 氏の講話



当日は、来間島民だけでなく、宮古島市民・観光客と幅広い層が来場し聴講しとても有意義な勉強会となった

(2) 第2回 地域ミートアップ

- **日時**：2025年7月31日（木）18:30
- **会場**：来間島離島振興総合センター
- **プログラム（抜粋）**：
 1. 主催者挨拶（次の来間島を創造する実行委員会）
 2. 賛助会員挨拶（沖縄リゾートウェディング協会／フォト申請・地域貢献プロジェクト）
 3. NTTデータ オートモビリジェンス研究所（環境保護と地域貢献のテクノロジー活用）
 4. 沖縄県環境科学センター 小澤氏（ジュゴン調査結果の共有）
 5. 沖縄県立芸術大学 藤田教授（ヤシガニと地域生態系の価値）
 6. 質疑応答
- **参加者の属性**：市民、行政関係者、宿泊・観光事業者、モズク漁業者、シュノーケル・SUP事業者、ヤシガニツアー事業者など、多様な主体にご参加いただきました。
- **プログラム・講演ダイジェスト**：

募集開始後に58名もの応募者があり、環境に対する興味・関心の高まりを感じました。地域関係者・有識者による意見交換に加え、蟹蔵氏から沖縄近海のジュゴン生態に関する知見提供があり、現場の目撃情報と調査の接続が進みました。ヤシガニについては「陸上で生息し海で産卵する」という生態的特性から、海岸線の環境保全が不可欠である点を再確認できました。

内容について

1. 委員会代表・大島

活動の開始と動機：2023年に自然共生型の島づくりを始動。コロナ禍での自然回復を契機に決意。

取組：サンゴ産卵痕跡の記録、島民による「海上さんぽ／集落さんぽ」ツアー（2024～）。

ツアー開発の目的：高齢化対策・雇用創出・生きがいを軸に、家族的・リピート型ツーリズムを志向。

方針：ジュゴン確認を踏まえ、国定・国立公園指定への追加を市・国に働きかけ。

2. 沖縄リゾートウェディング協会

対応：無許可撮影に対し許可制申請システム導入。申請料の一部を地域（来間島）還元。

展望：古民家・ウォールアート等の資源化、「恋人の聖地」ブランディング推進。

3. 沖縄県環境科学センター（佐川）

調査：宮古島北部・池間・大神で動植物／サンゴ詳細調査、国定・国立公園指定の妥当性を評価中。

来間島：現行範囲外だが、ジュゴン生息域として将来的指定候補の可能性に言及。

4. NTTデータ オートモビリジェンス研究所

実証：来間島での学校・公道で自動運転（障害物回避・歩行者優先）を検証。

提案：LiDAR等で農水産監視、夜間タコ公園巡回によるジュゴン保護支援を計画。

5. 沖縄県環境科学センター（小澤）

概要：ジュゴンは絶滅危惧（IUCN／環境省EN）、宮古～八重山で生息確認。

成果：環境DNA解析で来間近海のジュゴンDNAを検出。台湾個体が黒潮で来間到達の事例。

仮説・課題：黒潮供給仮説を提示。国際連携、藻場保全、漁業と両立する体制構築が必要。

6. 沖縄県立芸術大学（藤田）

専門：沖縄の海・洞窟生物。2004年以降、来間を継続調査。

ヤシガニについて：成熟に十数年。海岸線・森・水が不可欠。乱獲・環境破壊・交通事故で減少、小型化と遺伝的多様性低下。タコ公園周辺で小型化顕著。

保全策：サイズ規制・禁漁期・捕獲報告、ゾーニング、ナイトツアー規制、聖域設定。

質疑要点：触れ合い時期の注意、ツアーの影響、条例改正、ロードキル対策。

意見交換・総括

共通認識：地域主導で自然保護と観光振興の両立が重要。

地域間連携を継続し、来間発の価値発信を強化。

- 制作したバナー

Presented by 次の来間島を創造する実行委員会

ヤシガニ
ウミガメが暮らし
ジュゴンが通う島づくり。

国定公園化指定を目指して

2025年7月31日(木) PM6:30~
来間島離島振興総合センター

宮古島市は現在、国定公園指定を目指して八重干瀬や北部を中心に圏域の調査をしています。
私たちが活動する来間島は、現在のところ候補地となっていません。
そこで、地域ミートアップ「ヤシガニ・ウミガメが暮らし、ジュゴンが通う島づくり。」を開催し講師を招き、地域の自然について来場者のみなさんと学ぶとともに、来間島を含む他地域の候補地としての可能性についてメッセージを発信したいと思います！
最近では、来間島近海までジュゴンが海藻を食べにやってきていることが分かりました。
ジュゴンが生息できる奇跡の海をいつまでも。



- 当日の様子



当会からの開催ごあいさつの模様



会場には多くの方々が詰めかけた



上から、講演をする小澤氏・蟹蔵氏・藤田氏

②宣言の周知活動

(1) エコアイランド宮古島広報誌「島の色」への出稿業務



宮古島市のエコアイランド宮古島広報誌「島の色」11号

支の生面を
開拓する
銀行愛護会

「想を言葉に託して、世に伝えること」



▲ 2005 年 10 月 1 日起实施的《中华人民共和国劳动合同法》

Content

本書は、地域の持つ自然・人・文化を調査しながら、その自然資源を有効に活用し、地域づくりを行うことにより、地域づくりに貢献する活動について、その意義を明らかにしています。

【关键词】 自由裁量权

http://www.1000books.org/



次の表製菓を製造する製菓関係者の名称や団体は、
沖縄リゾートウェディング協会、日本製菓家協会、お菓子職人の会等によって作成されています。

5

「テーマ」言古来日と違ひし上ブエインズソフトの両面はグッスエイティ

● 実物と上手にデザインが融合した商品が売れる

- ② **フェイニングサービス部門**（半式やパーティーの演出・ショーなど）

[illegible][illegible]

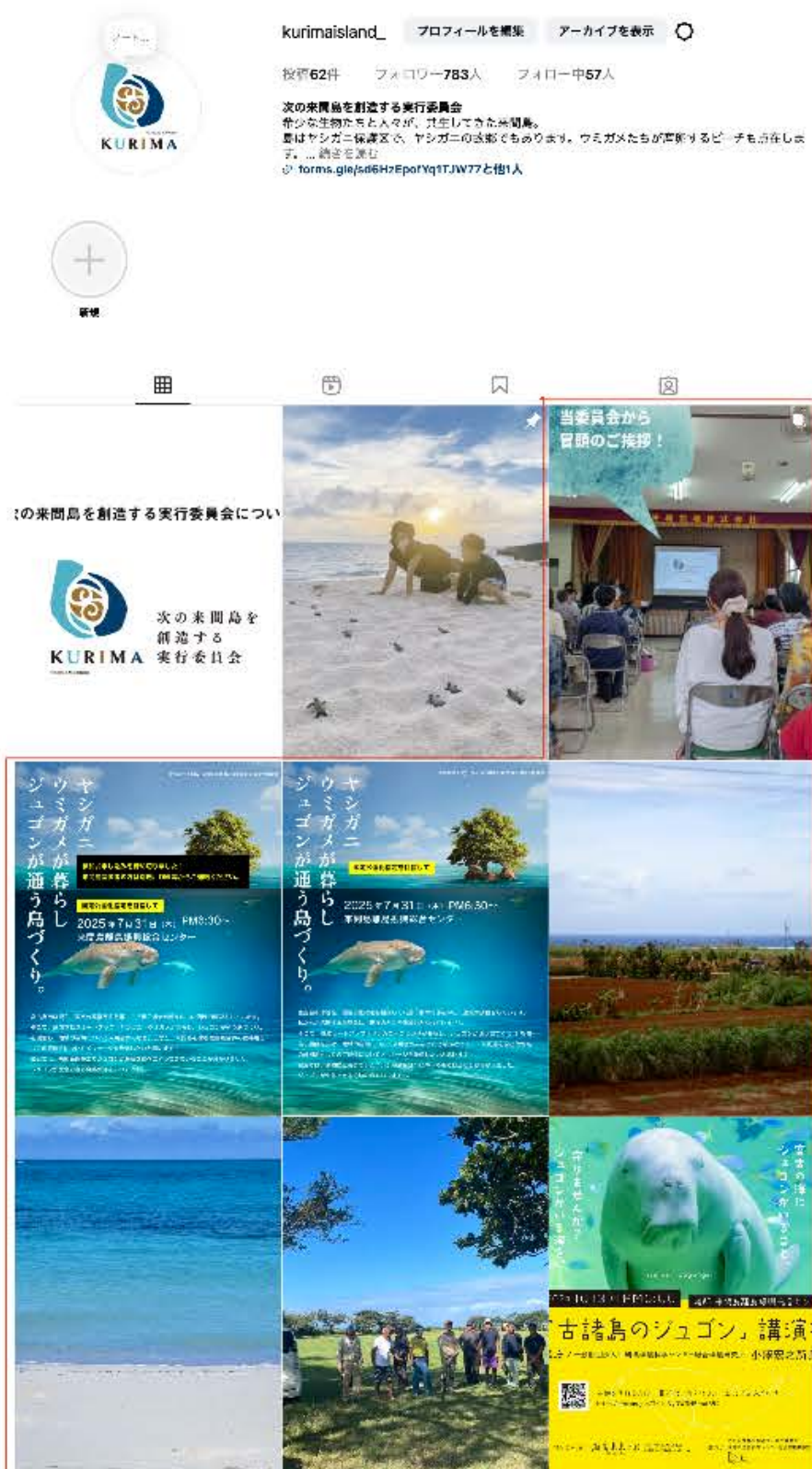
Source: *Journal of the American Statistical Association*, 1997, Vol. 92, No. 439, pp. 1092-1104.

(2) SNS更新業務

プロジェクト期間中の投稿数は20回となりました。

投稿内容は、プロジェクトの内容に留まらず、島の自然や暮らしに関する投稿も加えてユーザーに飽きられない工夫をしながら業務にあたりました。

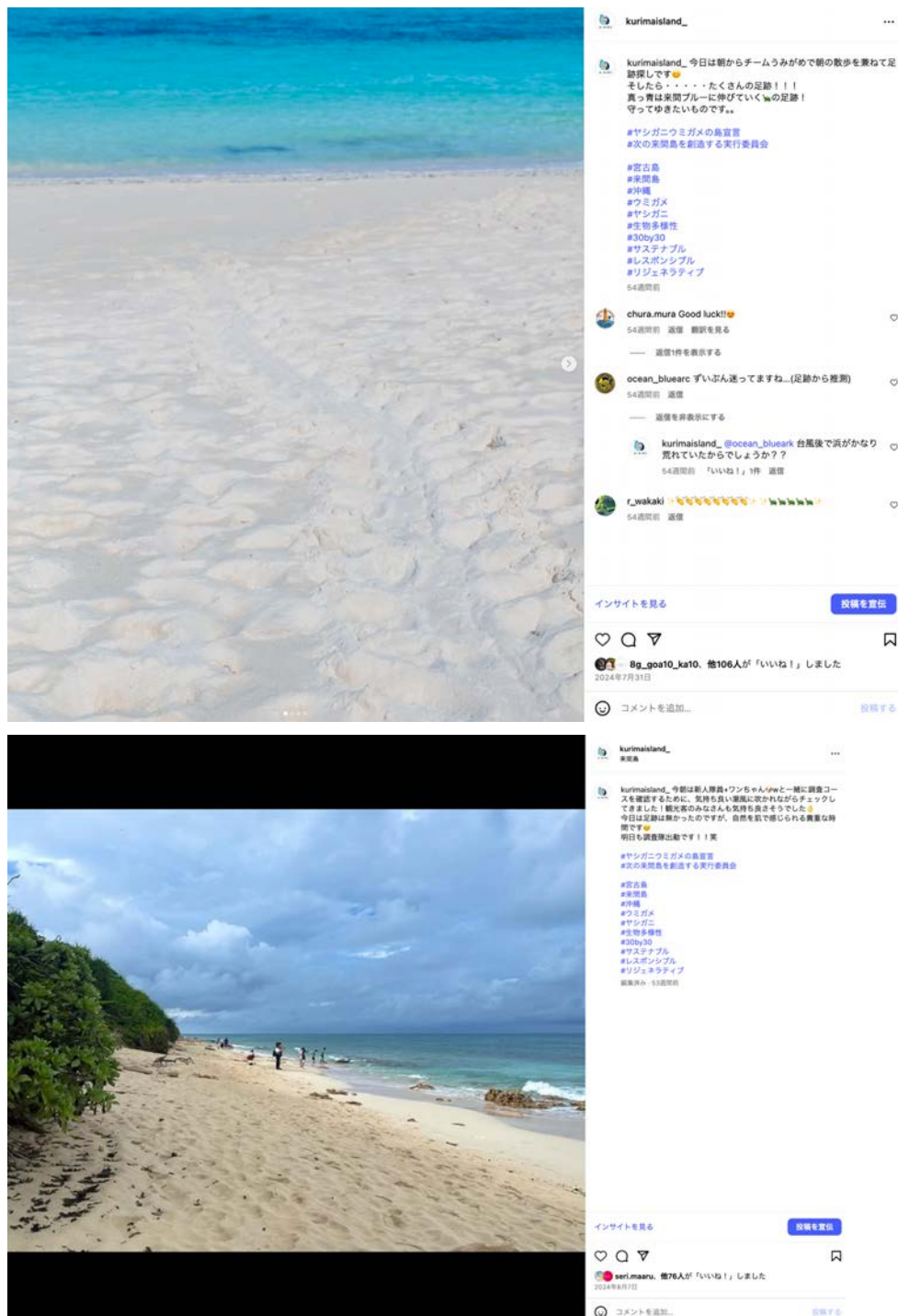
赤枠内が投稿したフィードです。





個別の投稿内容について

ウミガメの足跡調査の過程において、トピックスとなり得る事があれば投稿しました。
目的は活動の周知なので、共感をいただけそうな投稿となるように心がけて業務を実施しました。
下記は、調査業務について投稿。





kurimaland_

kurimaland_ 沖縄は旧盆です🍡
どのおうちも家族団欒でゆっくりお過ごしのことかと思いますが🍡
私たちも、ほぼ毎日ビーチに足跡探しです！
去年よりずいぶん足跡が多いです🍡🍡
ビーチは、人だけでなく万物生命のものですね🍡
ご先祖様から受け継がれてきた浜を、大切にしていきたいものです
ね〜🍡

#ヤシガニウミガメの島宣言
#次の未来島を創造する実行委員会

#宮古島
#東宮島
#沖縄
#ウミガメ
#ヤシガニ
#生物多様性
#30by30
#サステナブル
#レスポンスブル
#リジェネラティブ

52週間前

インサイトを見る

投稿を宣伝

8g_goat10_ka10、他77人が「いいね！」しました

2024年8月17日

コメントを追加...

投稿する

来間島という地域を知っていただくために、島民の活動や暮らしぶりも積極的に発信しました。



勉強会・シンポジウム・イベント・ミーティングの開催にあたっては積極的に発信しました。

また、開催実績についても、積極的に発信しました。
その結果、多くの方に参加いただくことができ、また次回以降に繋げていきます。

守りませんか？
ジュゴンが暮らす海を。

知ってますか？
宮古の海に
ジュゴンが暮らすこと。

live with dugongs!

日時 2024.10.13(日) PM6:00 場所 来間島離島振興総合センター

「宮古諸島のジュゴン」講演会

講師 / 一般財団法人沖縄県環境科学センター総合環境研究所 小澤宏之所长

参加をされる方は、事前にこちらのフォームにご記入ください
<https://forms.gle/TK1uNyDW3NBeodB59>

お問い合わせ先 / 来間島未来ラボ TEL 0980-79-8442 MAIL info@rito-labo.com

協賛 / 次期来間島を創造する実行委員会 沖縄県環境科学センター総合環境研究所

shimano_ito & kurimaisland_

shimano_ito さん「宮古諸島のジュゴン」講演会 講師：沖縄県環境科学センター所長 小澤宏之

ジュゴンは、沿岸域の生態系の頂点といわれます。その生態は、約半世紀ぶり！に来間島をはじめ宮古諸島で確認されました。

その存在は、まだまだ知られていないことばかり。彼らが生きる環境を理解することで、豊かな海を保全したり取り戻したりするヒントが見つかるかも知れません。

日曜日は、ご家族と、お友達と、あるいは会社の仲間と、誰に誘った宮古諸島のジュゴンのお話を聞きに来ませんか？

日時：2024年10月13日(日) PM6:00
場所：来間島離島振興総合センター

講演者：沖縄県環境科学センター所長 小澤宏之

参加やお問合せはDMからお願いします

お問い合わせ：TEL 0980-79-8442
MAIL: info@rito-labo.com

#宮古島
#久米島
#石垣島
#八重山
#ジュゴン
#海を守る
#地域活性化
#環境保護
#宮古島の未来
#学びとつながり
#自然を大切に
#私たちの力で
#未来に残そう #島の色

編集済み・44閲覧

noritomo_ekamura_ 他57人が「いいね！」しました
2024年10月9日

コメントを追加...

Presented by 次期来間島を創造する実行委員会

ウミガメ ヤシガニ
ジュゴンが暮らす島づくり。

国定公園化指定を目指して

2025年7月31日(木) PM6:30~
来間島離島振興総合センター

宮古島市は現在、国定公園指定を目指して八重干瀬や北部を中心に圏域の調査をしています。私たちが活動する来間島は、現在のところ候補地となっていません。そこで、地域ミートアップ「ウミガメ・ヤシガニが暮らし、ジュゴンが通う島づくり。」を開催し講師を招き、地域の自然について来場者のみなさんと学ぶとともに、来間島を含む他地域の候補地としての可能性についてメッセージを発信したいと思います！最近では、来間島近海までジュゴンが海藻を食べてきていることが分かりました。ジュゴンが生息できる奇跡の海をいつまでも。

kurimaisland_

kurimaisland_ さん「国定公園化指定を目指して」 ウミガメ、ヤシガニが暮らし、ジュゴンが通う島づくり

日時：2025年7月31日(木) PM6:30
場所：来間島離島振興総合センター

宮古島市では、現在国定公園指定を目指して調査が進められています。

地域ミートアップ「ウミガメ・ヤシガニが暮らし、ジュゴンが通う島づくり。」では、講師を招き、来場者と共に地域の自然を学び、来間島を含む地域の可能性を発信し、国定公園化指定を目指したいと思います！

ご来場をお待ちしております

プログラム

- 主催者挨拶 (次期来間島を創造する実行委員会)
- 賛助会員挨拶 沖縄リゾートウェディング協会事務局挨拶 (フォト申請 地域貢献プロジェクト)
- NTTデータ オートモビリティジェネクス研究所 (環境保護と地域貢献のテクノロジー活用)
- 沖縄県環境科学センター 小澤理事 (ジュゴン調査結果の共有)
- 沖縄県立芸術大学 藤田教授 (ヤシガニと地域生態系の関係)
- 質疑応答&終了 (20:40頃予定)

お申し込みフォーム
リンクはプロフィールのURLから！
またはDMで！

#来間島 #国定公園 #国立公園 #ジュゴン #ウミガメ #ヤシガニ #地域活性化 #自然保護 #宮古島 #持続可能 #ブルーゾーン #リジェネラティブ #エコツーリズム #patagoniapp #次期来間島を創造する実行委員会

編集済み・4閲覧

hidechan_tours_miyakojima 来間島の竜宮城の下の海には、モズク網がシーズン終わっても水中に設置されたままで、今現在ウミガメが網にかかり、呼吸が出来ず溺死し、死骸が引かかたまま浮いています。毎年見かける光景です。まずはこの辺から改善される事を希望します。

インサイトを見る

投稿を宣伝

neris385_ 他87人が「いいね！」しました
7月14日

コメントを追加...



kurimaisland_ ...

kurimaisland_ 🌿 「ヤシガニ・ウミガメが暮らし、ジュゴンが通う島づくり」ミートアップ、無事開催することができました 🌿

当日は、市民の方をはじめ、行政関係の方々、ホテル関係者、来間島近海でお仕事されているモズク漁師さんにシュノーケル・SUP事業者さんや、ヤシガニツアーをされている方なので、多様な方々に集まっていただき、関心の高さを実感を通り越して驚きました 🌿

📝 ジュゴンのお話
なんと、蜜蔵さんが飛び入りで登場し、沖縄近海のジュゴンの生態について貴重なお話をしてくれました。
目撃情報なども相次いでいますから、次回は私たちも目撃できるかもしれませんね！ 🌊💙

🌿 ヤシガニの環境保護
ヤシガニは陸上で生息し、海で産卵するという生態を持っています。海岸線の環境保全が、彼らを守るだけでなく、私たちの生活にもつながる大切なことだと学びました。

👤 次回へのご案内
進行が少し押してしまい、皆さんからの意見を十分に伺う時間が取れなかったことをお詫び申し上げます。
次回は、質疑応答の時間もしっかりと確保いたしますので、ぜひ次回もご参加ください！
より多くの方々と対話できることを楽しみにしています 🌿

#来間島 #ジュゴン #ヤシガニ #自然保護 #国立公園 #地域活性化 #沖縄 #持続可能な島づくり #次の来間島を創造する実行委員会 #ミートアップ

編集済み · 2日前

インサイトを見る 投稿を宣伝

👍 💬 🗑️

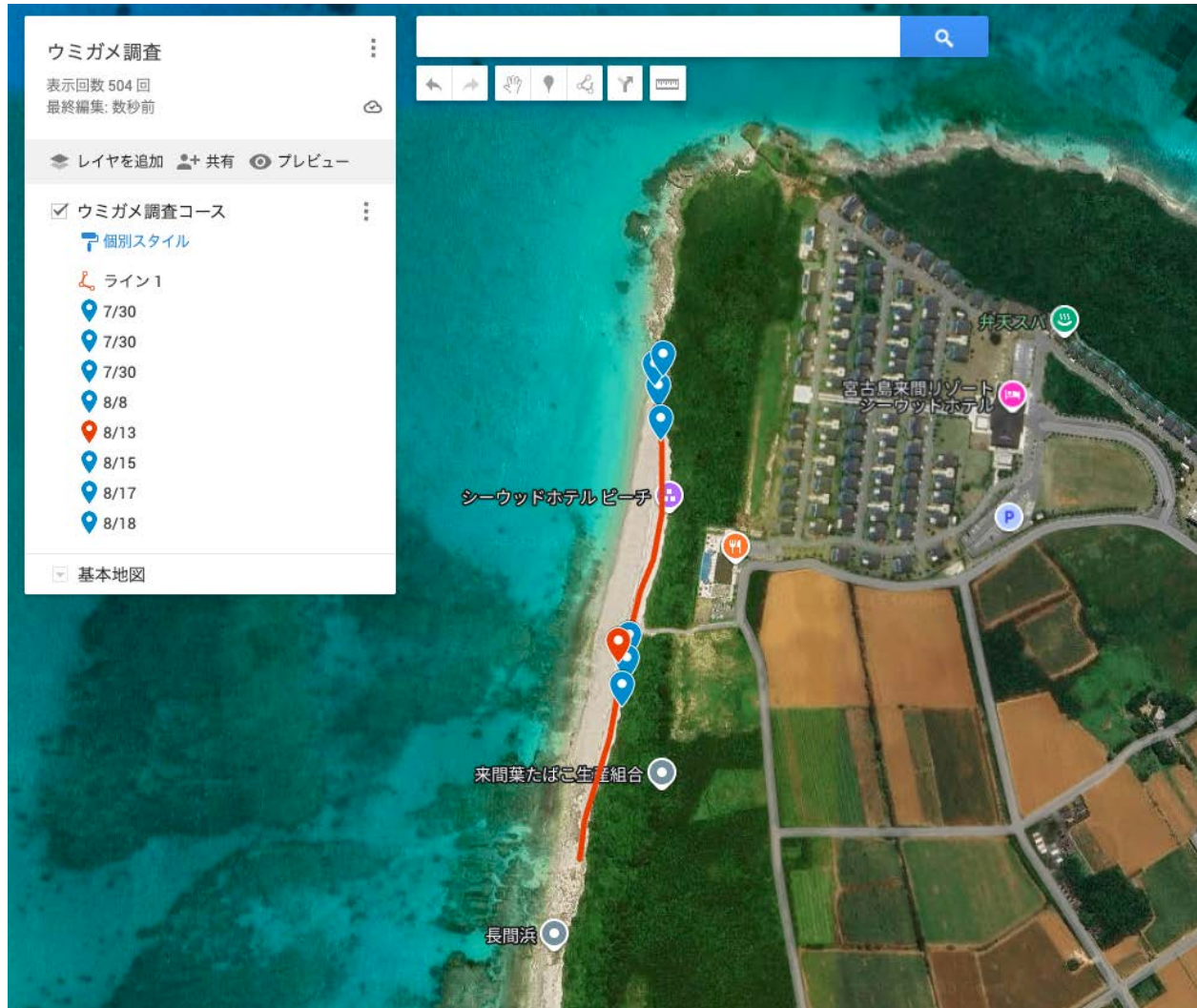
hidechan_tours_miyakojima、他26人が「いいね！」しました
2日前

😊 コメントを追加... 投稿する

③ウミガメ調査

(1) Googleマップに調査地点をマーキング

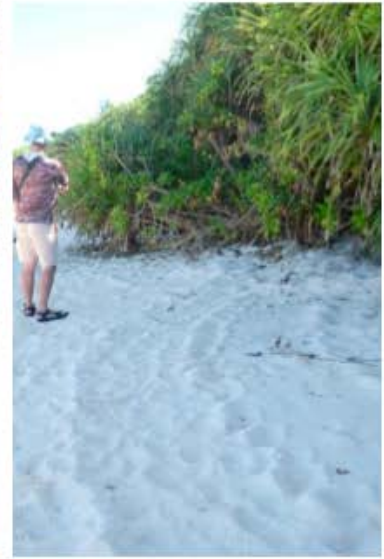
Googleマップに調査した場所をマーキングして記録しました。



(2) 調査日記

調査日記をつけて足跡や産卵の痕跡を調査しました。

2024.07.30	担当	場所	コメント
	大島康生	長間浜	台風がきた翌週の日。 たった1日で6箇所ほどのウミガメの足跡が確認できた。 シーウツの階段から左方面と右方面の両方で確認できた。 昨年、1日でこれほどの数の足跡が確認できた日はない。









2024. 07. 31 AM8 : 00	担当	場所	コメント
	大島康生	ムスヌン	岬を隔てた浜の方までチェックしたが痕跡は確認できなかった。 人の足跡が多い。

2024. 08. 06 AM9 : 00	担当	場所	コメント
	加藤	長間	前日夜から当日の調査前まで雨が降っていた。新しい跡は発見できなかった。7/30に発見した跡のうち、移動跡はほとんど見えなかった。産卵したと思われる跡は残っていた。



南側



北側



移動跡はわずかに見える



根元の産卵跡は残っている

2024.08.07 AM8:30	担当	場所	コメント
	原芹	長間	無し

2024.08.08 AM8:30	担当	場所	コメント
	狩俣明訓	長間	長間浜の階段を降りて右の奥のところで足跡を見つけました。



長間浜の右側の先



沖にで右に移動



手間から浜に来て奥から海へ？



岩沿いを歩いた痕跡あり

2024.08.09 AM9:00	担当	場所	コメント
	大島康生	長間	無し

2024.08.12 AM10:00	担当	場所	コメント
	狩俣明訓	長間	無しでしたが、8/8に見つけた足跡がまだ残っていた。



2024. 08. 13 AM9 : 00	担当	場所	コメント
	加藤	長間	子ガメが孵化したあとに這った跡のようなものがあった。 ヤドカリやヤシガニの足跡が多いが、8/6の時より南側にヤドカリが少なかった。



南側



北側

産卵場所？



子ガメが這ったと思われる跡





参考)2023年に発見した子ガメの這った跡

アオウミガメの産卵から孵化までの日数は40～80日とされている。

今回発見した卵は5月末～7月上旬に産卵されたものと考えられる。

2024.08.14 AM8:00	担当	場所	コメント
	原芹	長間	無し（孵化の痕跡に似ている跡もあったが、おそらくヤドカリ？）



2024.08.15 AM8:00	担当	場所	コメント
	狩俣明訓	長間	長間浜北に足跡発見。産んだ形跡までは確認できず。



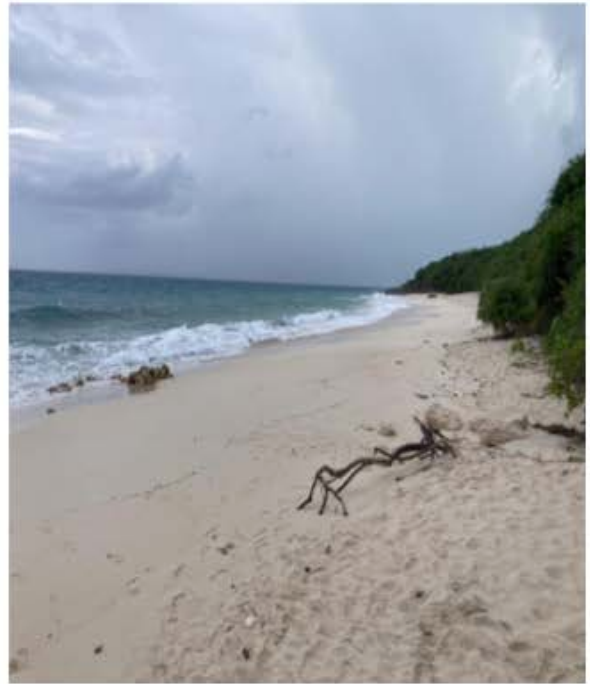
2024.08.16 AM8:00	担当	場所	コメント
	山名奈美	長間	北端で後を確認



2024. 08. 17 AM8 : 00	担当	場所	コメント
	狩俣明訓	長間	同じく北端だが、新しい後と考えられる。2箇所ほど産卵した形跡がある



2024. 08. 20 AM9 : 00	担当	場所	コメント
	加藤	長間	台風や高潮の影響で波が高い。ウミガメの新しい跡は見つからなかった。ヤドカリが多く観察された。



2024.08.21 AM8:00	担当	場所	コメント
	原芹	長間	痕跡無し

2024.08.22 AM8:00	担当	場所	コメント
	狩俣明訓	長間	痕跡無し

2024.08.23 AM9:00	担当	場所	コメント
	山名奈美	長間	痕跡無し

2024.08.24 AM9:00	担当	場所	コメント
	狩俣明訓	長間	痕跡無し

2024. 08. 27 AM9:00	担当	場所	コメント
	加藤	長間	1週間前より砂が少なく、岩場の露出が多い。 ウミガメの上陸跡のようなものが見つかったが、これまでのものより大きく、アオウミガメではなくタイマイの可能性あり (ウミガメでなく、人の可能性もある) ヤドカリやその足跡が多く見つかった。





2024. 08. 28 AM9 : 30	担当	場所	コメント
	原芹	長間	無し

2024. 08. 30 AM9 : 30	担当	場所	コメント
	大島康生	長間	長間浜階段右側にて足跡を一か所発見。産卵跡も薄くはなっていたものが残っていた。



まとめと今後の展望

本プロジェクト「来間島ヤシガニ・ウミガメの島宣言をして、共生の島づくり2.0」を通じ、私たちは以下の成果と学びを得ました。

1. 生態系保全に向けた調査の継続

ウミガメの生態調査を継続的に行い、保全活動をメンバーを中心に行いあらためて自然の価値を認識する事ができました。今後も継続できるように努め限りある地域の自然保護に尽力致します。

2. 地域と外部の連携

勉強会やミートアップを通じて、多くの島民・行政・研究者・観光事業者が協力し合う「共生の場」を築きました。

3. 情報発信の強化

広報誌やSNSを通じ、島内外に向けて活動を周知し、来間島の自然価値を多様な層に届けることができました。

4. 持続可能な仕組みづくり

賛助会員制度の導入など、活動を安定的に続けるための財政基盤の一步を築くことができました。

今後は、これらの取り組みをさらに発展させ、

- 国定公園指定への働きかけ
- ジュゴンを含めた広域生態系の保全
- 地域の誇りと生業を両立させる観光モデルの深化

を進めてまいります。

「ヤシガニ・ウミガメと共に生きる島」——その未来を次世代に手渡すために、委員会は地域住民とともに歩み続けます。

この度は、貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。